



校歌

作詞 寺田 彰司
曲 旧制一高寮歌
「アムール川」

一 千秋の雪積もりたる
富士の高嶺の雄姿ぞ
幾万代の後までも
変わらぬ誠の鑑なる
奔流百里石をかみ
巖に激しいや増しに
勢加わる利根の水
これ剛健のためしなり
あ、此の山と此の川と
日夕眺むる健男児
自然の示す巨人をば
如何に学ばん習わなん
白幡台の雪月花
四季の折々常総の
平野にしるく輝くは
高潔無垢の別天地
石段登る六十余
一足ごとに踏みかため
心を鍛え身を練りて
忠良有為の基たてん



旧制中学校校旗



附属中学校校旗



高校校旗



校名碑 (石段上)

編集後記	24	旧職員会について	24	令和3年度定通大会	24	部活動状況	23	附属中学校	22	進路状況	21	Rの軌跡 一・二〇年	20	制作の企画について	19	オリジナル制服リカちゃん	18	同窓会HP紹介	18	トピック②	17	トピック①	16	母校と私の人生	11	母校の想い出	6	令和4年度総会案内	5	令和3年度総会報告	3	校長挨拶	2	会長挨拶	2	目次	
------	----	----------	----	-----------	----	-------	----	-------	----	------	----	------------	----	-----------	----	--------------	----	---------	----	-------	----	-------	----	---------	----	--------	---	-----------	---	-----------	---	------	---	------	---	----	--

竜ヶ崎第一高等学校内
白幡同窓会事務局

〒301-0844 龍ヶ崎市平畑 248
TEL 0297-62-2146 FAX 0297-62-9830
ホームページ <http://www.shirahata.sakura.ne.jp>
メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com
印刷所：倉沢印刷(株) 題字：秋山海堂 (中 21 回)
表紙写真：3つの校旗と校名碑

ご挨拶



白幡同窓会会長
染谷 信洋

白幡同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃本会並びに母校の充実発展のために深いご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

本年も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、通常の総会を開催することができませんでした。実に残念なことでありましたが、皆さんには状況を快くご理解いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

このような状況下、昨年十月三十一日には、若干事業を縮小せざるを得ない部分はありませんでしたが、創立一二〇周年記念事業を挙行することができました。学校側の臨機応変の対応には心から感謝申し上げます。

そして私たちはこの歴史と伝統に新しいページを刻むべく新たな歩みを始めました。折しも本年四月には太田垣

淳一校長先生をお迎えしました。先生は昨年副校長として本校に赴任され、一年間本校の歴史や伝統そして実態をつぶさに見てこられました。そして今春から新しい視点を加えて学校運営に当たっていただいています。御期待申し上げます。どうぞよろしくお願いをいたします。

附属中学校も二回生が入学し、だいぶ賑やかになってきたようです。新鮮な制服もありこちらで見られるようになりました。難関を突破して入学された皆さんには心からお祝いを申し上げます。そして、どうかチャレンジ精神を大いに発揮して伸び伸びと学園生活を楽しみながら前向きにがんばってください。

コロナ禍の収束が見えない中、学校ではリモート授業が行われ、六月には外務省高校講座が開かれたという記事が新聞に掲載されました。本校卒業生で在韓国日本大使館一等書記官の武田直記(高50回生)さんがオンラインで講師を務めたというものでした。このような卒業生がいることに誇りを覚えるとともに、あとに続いて活躍してくれる人が出てくれることを期待して

います。

部活動も長い自粛期間があったようですが、それでもソフトテニスや射撃部、吹奏楽部等の活躍が新聞に掲載されたのを見ると嬉しい限りでした。

一口に「文武両道」と言ってもなかなかたいへんです。それでも竜ヶ崎一高の皆さんはがんばってくれています。嬉しい限りです。

社会的には一年遅れのオリンピック・パラリンピックが開催されました。コロナ禍の状況下での世界的な催事でした。まさしく記録にも記憶にも残る二〇二一でした。

世相が目まぐるしく変化する現代、若い人たちの将来もなかなか厳しいものがあります。そういう中で、竜ヶ崎一高の皆さんには高校時代を大切にしてほしいと願っています。

私自身のささやかな経験に照らしてもその後の人生の土台になったのは紛れもなく高校時代でした。白幡台の青春が後の人生に大きく生きています。「人生意気に感ず」です。この白幡台で大いに励んでください。

私たち役員一同も、今年さまざまな経験を生かして今後ともがんばってまいります。

す。

皆さんにとって、来年こそは本当によい年になるようお祈りいたします。

21世紀の竜一を 共創しよう



校長
太田垣 淳一

不透明な世情にコロナ禍が拍車をかける中、みなさままたいへんなご苦労をされています。本校も年初より幾度かの「休業」を強いられ、学びの中断や質低下の危機に瀕してきました。その中でも着々とデジタル対応が進み、開校時より一人一台の環境が整備された附属中、そして今年度よりBYOD(家庭で購入したPCの持ち込み)を始めた高1を筆頭に、情報化時代の学びに向けた実践が、学校の日常風景となりつつあります。

さて本校は折から、「県立高等学校改革プラン」にもとづく変革の途上にあります。本稿ではご挨拶に代え、今年

度以降の中期計画について概説させていただきます。まず私たちは四校訓に立ち返り、軸足となる「竜一の精神」を明文化しました。

- 高潔 PRUDENCE**
自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する
- 誠実 INTEGRITY**
まっすぐ学びに向き合う、誠実で知的な学びの場となる
- 剛健 RIGOR**
質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける
- 協和 INCLUSION**
異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる

その上で、21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を輩出すべく、鍵となる3つの重点領域を定めました。



1. 探究中心
国際社会は、「問う力」(批判的思考力を中心とした分析力)に併せ、具体的な価値創造に向かう「イノベーション力」を求めています。これに応え本校でも、SSクラスにおける真理探究に加え、実践に軸足を置いた課題解決プログラムを立ち上げ、2軸で探究学習を展開します。後者は、地元自治体等と連携し、また課題解決のプロにノウハウを学びながら、本物の地域課題に取り組みます。

2. デジタルファースト
もはや「読み書きそろばん」に並肩するICTリテラシですが、報道の通り日本の学校のデジタル化率は、先進国最低水準を低迷しています。時や場所の制約を超え世界中の多様な知につながることも、学力やスタイルに合わせたテイラーメイドの学びを目指し、退路を断って「21世紀型の学び」を実現します。情報科においても、ロボットや人工知能など最先端の話題を率先して取り入れます。

3. グローバルシチズンシップ
SDGsに象徴される国際課題解決の前線で活躍するためには、外国への憧れや教養英語の域をいち早く卒業する必要があります。ヒト・モノの要路を外れた本校は、特に、危機感をもって多様性を上げ、生きた異文化接触の機会を確保しなければなりません。修学旅行等での国際交流に加え、オンライン会話や地

元在住の外国人の方々の活用など、あらゆる方策で国際感覚の醸成を期します。同時に特活等を通じ、国際社会で求められる主体的な姿勢を育てて行きます。

最後に、劇的な変化を続ける世界を前に、もはや学校のみで完結する学びはありません。また令和5年度の単位制移行を前に、地域に根差した竜一らしい教育課程がますます期待されています。そんな今ほど、白幡同窓会のみなさまの貴重な知識・経験が活躍の時代はありません。教科やICTに関連する専門性、受験指導、国際経験など、実社会で育まれたお力を、どうか母校の後輩たちのためにお分けください。(我こそはというみなさまは、提供可能なスキルとともに白幡同窓会事務局 shirahatadousoukai@gmail.comまでご連絡ください)。

みなさまに心から愛された竜一を、さらなる高みに上げる一助となるべく汗して参ります。引き続きご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

総会報告

令和3年度の白幡同窓会総会は4月3日の開催に向けて準備を進めてまいりましたが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月6日の臨時役員会で、総会を中止することを決めました。

3月28日の役員会において、次の議案が審議され、承認されましたのでお知らせいたします。

なお、詳細については、同窓会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

- 審議事項
- 1 令和2年度 事業報告 について
 - 2 令和2年度 決算書について
 - 3 役員改選について
 - 4 令和3年度 事業計画 (案) について
 - 5 令和3年度 予算書 (案) について
- 報告事項
- 1 協力金納入状況について
 - 2 同窓会名簿の賛助金者について
 - 3 学校現況について

【本部役員】
顧問 野口武太郎 (中40)

会長 齋藤 佳郎 (高8)

副会長 横須賀英明 (高10)

会長 染谷 信洋 (高15)

副会長 小倉 培夫 (高20)

副会長 関口 広行 (高26)

副会長 倉持 正男 (高27)

副会長 大和佐知雄 (高28)

副会長 山田 實 (高26)

副会長 有川 保 (高33)

副会長 山崎 睦 (高31)

副会長 木野内昭治 (高13)

副会長 服部 俊夫 (高25)

副会長 櫻井 篤美 (高29)

副会長 篠塚 文男 (高28)

副会長 横田 久 (高28)

副会長 川口 浩己 (高29)

副会長 赤塚 誠 (高30)

副会長 大野 雅之 (高30)

副会長 大野 雅彦 (高31)

副会長 小嶋 吉浩 (高31)

副会長 福田 道義 (高31)

副会長 本田 仁子 (高31)

副会長 宮本 順紀 (高32)

副会長 霜村 裕通 (高33)

副会長 磯山 佳美 (高34)

副会長 海田磨起代 (高36)

副会長 具志堅秀和 (定56)

副会長 *岡田 晋 (高32)

副会長 *大野 金人 (高35)

副会長 *坪井 龍夫 (高35)

副会長 *福島 正明 (高35)

*は新役員

令和2年度 白幡同窓会収支決算書

収入総額 11,722,415 円
 支出総額 5,631,112 円
 差引残額 6,091,303 円(次年度へ繰越)

令和3年度 白幡同窓会予算書(案)

収入総額 10,789,400 円
 支出総額 10,789,400 円

(収入の部)

(単位:円)

科目	本年度 予算額	本年度 決算額	比較		摘要
			増	減	
1 繰越金	5,936,674	5,936,674			令和元年度より繰越 会計用 5,936,674円 常陽銀行(普)
2 入会金	1,698,000	1,692,000		6,000	全日制 6,000円×272名=1,632,000円 定時制 6,000円×(8+2)名=60,000円
3 協力金	3,000,000	3,025,000	25,000		ゆうちょ銀行扱い分 547件 1,183,000円 コンビニエンスストア入金分 918件 1,836,000円 学校へ持参 3件 6,000円
4 雑収入	26	1,068,741	1,068,715		高21回卒石嶋昭男氏 10,000円 同窓会名簿販売還付金 1,058,700円 普通預金利息 41円
合計	10,634,700	11,722,415	1,087,715		

(収入の部)

(単位:円)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較		摘要
			増	減	
1 繰越金	6,091,303	5,936,674	154,629		令和2年度より繰越 内訳 会計用 6,091,303円 常陽銀行(普)
2 入会金	1,698,000	1,698,000			全日制 6,000円×277名=1,662,000円 定時制 6,000円×(1+5)名=36,000円
3 協力金	3,000,000	3,000,000			協力金 2,000円×1,500名=3,000,000円
4 雑収入	97	26	71		預金利息等
合計	10,789,400	10,634,700	154,700		

(支出の部)

科目	本年度 予算額	本年度 決算額	比較		摘要
			増	減	
1 事務費	1,070,000	431,321		638,679	
1 消耗品費	50,000	0		50,000	
2 支払手数料	280,000	269,140		10,860	サラト扱い手数料 158,070円 郵便局支払手数料 111,070円
3 印刷通信費	370,000	44,050		325,950	同窓会通信切手、業 書代
4 広報費	170,000	20,581		149,419	ホームページ用運用 諸費
5 旅費交通費	200,000	97,550		102,450	役員会・委員会交通 費等
2 事業費	4,720,000	3,639,791		1,080,209	
1 総会費	150,000	0		150,000	
2 会報発行費	2,800,000	2,804,573	4,573		会報32号印刷代 (779,460円) 会報郵送代 (2,025,113円)
3 会議費	170,000	48,492		121,508	役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	156,510		43,490	卒業証書ファイル購 入代
6 部活動奨励金等	900,000	170,000		730,000	※20,000円+5,000円 ×出場人数 (10万円限度) 関東 (射撃部、軽音楽) 全国 (書道、写真、吹奏楽)
7 学校行事補助	300,000	260,216		39,784	SSH関連事業経費
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流基金
3 慶弔費	100,000	0		100,000	
4 基金積立金	0	0			
5 予備費	4,744,700	1,560,000		3,184,700	創立120周年記念式 典寄付金
合計	10,634,700	5,631,112		△5,003,588	

(支出の部)

科目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較		摘要
			増	減	
1 事務費	1,070,000	1,070,000			
1 消耗品費	50,000	50,000			事務用品、定期残 高証明書代
2 支払手数料	280,000	280,000			協力金振込手数料
3 印刷通信費	370,000	370,000			切手・業書購入、 印刷代等
4 広報費	170,000	170,000			ホームページ用運 用諸費
5 旅費交通費	200,000	200,000			役員会交通費等
2 事業費	4,820,000	4,720,000	100,000		
1 総会費	150,000	150,000			総会経費補助
2 会報発行費	2,900,000	2,800,000	100,000		会報33号発行印 刷、発送料
3 会議費	170,000	170,000			役員会等経費
4 招待学年記念品費	0	0			
5 卒業記念品費	200,000	200,000			卒業記念品代 (卒業証書ファイ ル)
6 部活動奨励金等	900,000	900,000			部活動奨励金等
7 学校行事補助	300,000	300,000			SSH関連事業経費 高大連携経費等
8 国際交流基金	200,000	200,000			国際交流補助
3 慶弔費	100,000	100,000			弔慰金等
4 基金積立金	500,000	0	500,000		創立130周年式典に 向けての積立
5 予備費	4,299,400	4,744,700		445,300	
合計	10,789,400	10,634,700	154,700		

科目間の流用を承認願います。

上記のとおり提案いたします。
 令和3年 3月27日

茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会会長

科目間の流用を認める

基金積立金(常陽銀行) 2年度未積立額 6,003,307
 合計 6,003,307

上記のとおり報告いたします。

決算報告日 令和3年3月27日
 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 白幡同窓会会長 染谷 信洋

監査書

令和2年度収支決算について、監査しましたところ証拠書類、通帳等すべてにおいて正確にして適正であることを認めます。

令和3年3月27日 監事 山田 實 @
 監事 有川 保 @

令和 4 年度 同窓会総会のご案内

令和 4 年度 白幡同窓会 総会

- 1 日時 令和 4 年 4 月 2 日 (土) 午後 1 時 開会予定
- 2 場所 茨城県立竜ヶ崎第一高等学校 体育館

令和 3 年度の白幡同窓会総会並びに懇親会は新型コロナウイルス感染症対策のため、開催を中止いたしました。

令和 4 年度の総会については、4 月 2 日 (土) 13 時 00 分から竜一高体育館にて開催する予定です。新型コロナウイルス感染状況等により予定を変更することがありますことをご了承ください。

今回ご案内の往復葉書を差し上げるのは、各卒業回の幹事の方々と、令和 2 年度の招待学年であった高校 13 回・23 回・38 回・53 回・63 回及び定時制 9 回・19 回・34 回・49 回・59 回と、令和 3 年度の招待学年であった高校 14 回・24 回・39 回・54 回・64 回及び定時制 10 回・20 回・35 回・50 回・60 回と令和 4 年度の招待学年である高校 15 回・25 回・40 回・55 回・65 回及び定時制 11 回・21 回・36 回・51 回・61 回の卒業生全員になります。

招待学年の出席者の方と 70 歳以上の出席者の方 (1 回限り) には、陶芸家・植竹敏氏 (高 27 回) 作製のオリジナル校章入りの「白萩釉鑄湯呑」を記念品として贈呈いたします。

なお、総会は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施する予定ですので、参加者には検温・手指消毒及びマスク着用のご協力をお願いします。

同窓会懇親会について

これまで総会の後に開催してきました「同窓会懇親会」については、役員会等で検討した結果、その実施方法等について変更することになりましたのでお知らせします。

懇親会会場と新型コロナウイルス感染症の 2 つの問題について、いろいろ話し合った結果、次のような結論になりました。

- 1 同窓会懇親会について
 - ・従来のような全体の同窓会懇親会は実施しない。
 - ・これまでは、総会開催の案内状で懇親会の参加希望調査を実施していたが、今後は、総会の参加希望だけを調査する。
- 2 招待学年単独による懇親会を開催する場合について
 - ・日時及び場所・経費等については学年幹事等で決める。
 - ・懇親会の開催に関わる経費として、同窓会予算から 3 万円の補助金を 1 回限り、給付する。
 - ・招待学年単独による懇親会には、同窓会本部役員 1 名が参加する。

◎上記のことについて、ご不明な点があれば下記にご連絡ください。

白幡同窓会メールアドレス shirahatadousoukai@gmail.com

母校の思い出

母校の思い出



高 15 回 正三 一島

私が入学した頃、日本は第二次世界大戦によって経済は壊滅的な打撃を受けた。その混乱の中で国民皆保険・皆年金が執行された。そして昭和三十年代には高度成長期を迎え、日本の産業構造を第一次産業中心から第二次産業、更に第三次産業へとシフトさせ、就業構造の変化をもたらした。

元々私は体が弱かったこともあり、あえて自転車通学とし自宅の千葉県印西町から一時間半かけ学校に通った。だが一ヶ月経った頃体調を崩し二ヶ月間休学することになった。その後汽車やバスでの通学に切り替えた。二ヶ月経った頃体調が戻り、再び自転車通学で卒業する迄休まず通う事が出来た。その間もあつて体力が付き、あらゆる学校行事に皆と同じく参加する事となる。毎年恒例の全校マラソン

は、市内から利根町の大房を廻る遠距離コースで、私にとつては大変きつく顔に塩が吹く程でした。ゴールでは冷たい麦茶が用意されていて、それを「ぐい」と飲んだ時のなんと美味しかった事か。

勉学では〇〇〇の大徳先生と呼ばれた大変ユニークな名前が付いた先生方がおられた。また授業中居眠りをしていた生徒が「おまえらは餌が悪いからダメなんだ」等と生物の沼知先生に暴言を吐かれる事もあった。

竜ヶ崎一高の「千秋の雪積もりたる：忠良有為の基たてん」と歌われる校歌においては質実剛健な気風を感じ、高校野球が始まると竜一の応援の声を思い出し、今でも口ずさむ時がある。

卒業後大学に進み、途中安保闘争に遭遇しましたが無事卒業する事ができました。その後民間会社に就職し、社会全体がグローバル経済体制の中で、私は数々新規事業の立ち上げや国内各地、諸外国への営業等と目まぐるしい毎日を通り越すも充実した日々でした。

六十五歳で退職し、現在は竜ヶ崎一高学友の(故)平塚君の勧めでパステル画を始め、又同期生でのゴルフ会(専

会)を年に二回開催(現在コロナ禍で休止)しています。また地元の各種ボランティア活動にも参加し、毎日忙しい日々を過ごしています。

現在世界はCovid-19のパンデミックの渦中にあり大変な苦境に立たされています。それにより世の中のあらゆる分野でのシステム構造が変わり、又産業革命による排泄物の未処理の弊害が地球の温暖化を招き、異常気象で全世界に災害をもたらしている。これらを克服していくには従来の延長線上での考え方ではなく、新しい視点に立った未来を見据えた教育とあり方が望まれる。私も微力ながら世の中の助けになる事をしていきたいと思ひます。

喜寿に想う

一 高スピリット



高 15 回 黒田 輝子

私達十五回卒業生は、今年七十七歳の喜寿を迎え、名実共に「後期高齢者」となっています。そして今、令和三年は「コロナ」と「オリンピック」

の二語は絶対に外せない忘れる事の出来ない年でもありません。そんな激動の年に、私個人としては願ってもない母校への寄稿の記念も更に加わり、重責を感じつつも光栄な事に感謝しております。しかし約六十年前の高校時代を想い起こすには余りにも時が多

く流れ、しかも脳の老化も伴い薄れた記憶の糸を手繰り寄せるにはかなりの時間とエネルギーを要しました。それでも何とかいくつかのエピソードがかすかに蘇り、拙い川柳にまとめる事が出来た為、五七五の文体に同窓生の何人かが一高時代を懐古する一助になりましたら本望です。

一、古き講堂 格調高く 進む式 入学式や卒業式等の式典はここが舞台でした。厳肅な空気を憶えています。

二、校訓を 四分割で 競う秋 体育祭の応援合戦は青春の頂点。 フォークダンスも忘れられません。

三、やや暗き 階段教室 異空間 石神先生の甲高い声と 白衣を翻す姿はとても

四、花瓶から「不可抗力」を 恩師説く 二年生の時教室の花瓶をうっかり破損。謝罪の折、沼知先生よりこの意を教示され、それ以来人生訓となつてい

五、イベントに「柳家小さん」 粋に呼ぶ 文武両道の奥には「自由」や「ユーモア」も 要る事を学ぶ一ページ でした。

六、車社会 時代先取る 部活あり 「自動車部」なるクラブが有り、校庭を乗り廻す姿に目が点でした。 追試あと

七、下校時の ペダルは軽く 追試あと 苦手な数学で赤点をとつてしまいい度とは云え恥ずかしくも貴重 な体験でした。

八、挫折して 心のギアを ローにする 幾度かの不遇不幸もかつての一高スピリットが常に原点に戻してくれました。

九、自分史は マイナス要素 味方にし 紆余曲折の七十七年で

味方にし 紆余曲折の七十七年で

味方にし 紆余曲折の七十七年で

味方にし 紆余曲折の七十七年で

したが、今が有るのは母校のお蔭と感謝しております。

十、喜寿迎え 老いに抗う鏡前

いくら若作りしても鏡は正直です。年齢相応の自分の姿を認めざるを得ませんが、心だけはあの学生時代を保持したいと思っております。

以上十句の思い出を披露させて頂きましたが、一句からでもあの高台の学び舎を思い出して頂けたら嬉しい限りです。

人生百年時代です。これからも一高スピリットを発揮して、長寿社会を謳歌しましょう。

母校のご発展とご活躍をご祈念して終わりと致します。



高 15 回
町田 俊彦

竜ヶ崎第一高等学校に入学生したのは昭和三十五年(一九六〇)四月で、「安保反対」のデモが国会を包囲した「政

治の季節」でした。高校三年間の思い出には、つらかった二〇キロマラソン、文化祭の応援合戦と仮装行列(男子生徒の女装が目立ちました)などいろいろありますが、恩師の思い出を記してみます。

多くの先生方のお世話になりましたが、英語を担当された中尾先生が特に印象に残っています。東京外国語大学の大学院修士課程を修了して、竜一高に赴任、何年も経たないうちに私達の学年を担当されました。頭脳明晰でハンサムな上に、テニスなどスポーツが得意で、女子生徒の人気の的でした。

独身で米町水門の洋館風の家にお住まいでした。お邪魔したことがあります。部屋に英語の原書がいっぱいで、中英語の原書がいくつもありました。高校教師を務めながら、英語研究を続けられ、私達が卒業して間もなく、国立電気通信大学短期大学部に移られました(後に電気通信大学教授に就任)。

英語の授業では、私の記憶違いでなければ、当時東京大学合格者が全国一の都立日比谷高校と同じ教科書を使っていた。そのお陰で英語の力がついたようです。友人数

人と東京の城北予備校(現在は廃校)の模擬試験を受けにいったのですが、我々竜一高生は英語の成績で上位に入り、都会の受験生に引け目を感じることはないと思えました。

私は大学院を修了してから大学教員になり、福島大学、東北大学、専修大学で経済学(財政学)担当の教員を務めました。進路を選択するに際して、中尾先生のアカデミックな書齋や研究への姿勢が影響を及ぼしています。七〇歳で定年退職した後も、研究では「生涯現役」を心がけて、年に数本の論文をまとめています。英文の要約を付けるとき、中尾先生から学んだ英語の基礎が役立っています。竜一高は、私の研究者生活への「導きの糸」となった恩師との出会いの場を与えてくれました。感謝しています。

母校の思い出

秋元 照峰(高25回)

青春のリグレット

あなたが本気で見た夢を(見た夢を)はぐらかしたのが苦しいの

私を許さないで憎んで

も覚えて今では痛みだけが真心のシルエット

松任谷由実
(青春のリグレット)

この曲を聴くと自分の青春時代と重なり、苦い思い出とともに『後悔』の理由は人それぞれ違うもの、と思いが知らされる。当たり前ではあるが、自分の悔やむ理由を他人に理解されないことはよくあることだし、その逆もまたよくあることだろう。

私には忘れられない二つのことがある。

一つは、短大に勤務して約五年目のこと、非常勤の先生に誘われてインドに行くことになった。先生は東大でインド哲学を学び、その後も研究の為に数年に一度は現地を訪れていた。その先生と二週間インド各地を訪問し、いわゆる観光とは違った姿を見られるはずだった。すべての準備を整え出発を待つ一週間前に廊下で転んで左腕を骨折、ギプス固定でのインドは危険との判断で結局中止。またいつか機会はあるだろうと思いつつ四十年近い歳月が過ぎてしまった。

もう一つは、昭和46年高校

二年の夏、地学部の研究で浅間山に登ったときのこと、頂上まで残り一時間くらいところで私は挫折してしまつた。もう少し頑張れば登れたとは思うが、登れなかった。快晴の草原で昼寝をしながらみんなの帰りを待っていた時間の長かったことを今でも忘れられない。みんなと無事合流した後、火口から大事に持ち帰った火山弾談議にも加われなかった。みんなの楽しそうな声がつらかった。でも、またいつか登る機会があると信じていた。

そして、昭和47年2月19日、あさま山荘事件がああ登山道のすぐ近くで起きた。さらに、昭和48年2月1日から約三か月、浅間山が中規模噴火を起こした。以来、浅間山の山頂までの登山ルートは約五十年にわたり閉ざされている。

高校、大学を卒業し社会人になり、その間学生や友人たちと、三百回以上大小の山に登った。高校二年の浅間山登山を胸に秘め、「後でやればいい」、「またいつか機会がある」、「信仰を捨て、「チャンスは一度、今がその時」とつぶやきながら。

50年前の竜一高と今の私



高 25 回 石引 督規

竜ヶ崎一高に入学したのは半世紀も前の事になるが、当時を振り返ると様々な事が思い出される。階段を登り切ると重厚な木造校舎があり、そこで受験をした最後の学年である。

長髪が認められ、鉄筋の新校舎建設が始まり新しい気運が感じられる年でもあった。建設中であつたために私のクラスはプレハブで夏は暑く、蚊が多く、冬は寒く、勿論エアコンなど無い。その上男子クラスで殺伐とした高校時代であつた。(女子は33名)

また、入学した年は創立70周年であり剣道部員であつた私は来賓受付の手伝いをしたが、旧制中学のOBも多く竜一高の歴史を深く感じた。当時、階段下に浪川食堂があつた。弁当を忘れたら職員室で外出許可証と言う木札を貰い、着帽の身なりでそこへ食へに行くのである。

浪川食堂の「ゴムそば」(輪ゴムの様な歯ごたえの具なし

焼きそば)は思い出深い。よく、大学の学食は不味かつたと言う人がいるが私は学食の旨さに感激した。多分、竜一高の卒業生は同感であろう。

今でも私と竜一高の繋がりは続いている。一つは同級生の繋がりで「交龍会」と言う旅行会を続けている。

沖繩や東北へも行ったが、特筆すべきは八戸の居酒屋へ行った時の話。小さな店に我々6名が入つたところ先客が1名。店主は「今日は茨城の方ばかりだな」と言う。何と先客は、日本政策金融公庫八戸支店に勤める竜一高の後輩であつた。八戸の小さな居酒屋で客全員が竜一高OB!偶然とは言え嬉しさと驚きで大盛り上がりになつたのは言うまでもない。竜一高は何処でも同窓会が出来る学校なのである。

もう一つは竜一高写真部との繋がりで、40年経営した写真館を子供たちに譲り、現在は一人で龍ヶ崎市に写真事務所を構えているがボランティアで写真部の指導もしている。部活指導では、技術的な説明はあえてしない様にしている。何故シャッターを切つ

たのかを考える事に重点を置いていた。技術的な事はYouTubeでも調べられるが、生徒がカメラを持った事で何を感じたかが大切だと思つている。

昨年は高文連全国展写真の部にも入賞したが、竜一高写真部が全国展常連校になれる事を夢見ている。

同級生の繋がりも後輩との繋がりも心の底には竜一高に対する母校愛があるからだろう。



高 25 回 野口 龍一

龍一が竜一へ
そして、めぐり逢い

昭和四十一年夏。それは、父の仕事の関係で初めて龍ヶ崎市を訪れた時のことだつた。父と事業主との会話の中で「今年の竜一は強いよ。甲子園で勝つたよ。」というやり取りが、私の耳に入つてきた。帰り際、ふと振り向くと、夏空の下、高台にレンガ色の二階建ての木造の校舎が凛とした佇まいを見せていた。

昭和四十五年四月、憧れであつた竜一高に入学した。担

任の先生は、永島和彦先生でした。永島先生は教室に入ると、「邂逅」という文字を板書された。諸君とは偶然の出会いだが、このめぐり逢いを大切にしたい、これからは人生多くの出会いがあり、人を大きくしてくれるという趣旨のことを話された。

当時、数学と英語の授業は、特別のクラス編成で行われた。教室の最後列に手島、栗林、伊藤、荒藤そして私の五人が机を並べた。地域の祇園祭や期末試験後等、いろいろな機会を見ては、それぞれの家を行き来した。この気の合う仲間から、同じ物事であっても価値観の違いから、人によつて見方や考え方が決して同じにはならないことを学んだ。

大学に進むと、「邂逅」という言葉の持つ重みを一層強く感じる事となつた。夜通し酒を飲みながらの人生論議。汗と泥にまみれながらの夏合宿。課題ごとにダイベイトしたゼミ研修、などなど。集まり散じて人も変わつていく。多くの出会いの中で、生涯の友を得て、人生の生き方を学んでいった。

地方公務員となつてからは、高校・大学時代の多くの

出会いの中で培つた生き方や人と人との繋がりが、仕事をする上で大きな心の拠り所となつた。永島先生からいただいた「教え」がなければ、今の自分はなかつたのはではないかと思う。

公務員退職後も仕事を続けているが、今後もその向き合い方を変えるつもりはない。美しき素敵なめぐり逢いに乾杯!

石段と自分探しの3年間



高 40 回 小松(井澤) 祥子

思い出すのは、いつも息を切らしながら石段を登つた毎日のこと。高校時代は楽しくて時間がアツという間に過ぎてしまひ、連日寝不足なのか、満員の竜鉄に揺られ、駅から少し距離のある通学路を歩いた後、最後に石段を登るのが苦しかった思い出があります。神社の階段のような石段はもう改修されたのでしょうか・・・?

学校に入ると鬱蒼とした木々が茂り、毎日校舎から窓

の外を眺め風に吹かれる木々を眺めながら、この空はどこにつながつているのかな、自分はどこに向かつていくのかな、などと取り留めなく考えていました。

当時の竜一は、4 年制高校。浪人が当たり前というのんびりした空気の中、校内暴力全盛期の息の詰まるような中学生活から解放された私は、学校生活を満喫し、好きなことを好きなだけ見つける青春時代を謳歌しました。

その中で出会ったのが文化祭活動。最初は半ば押し付けられた文化祭実行委員会にハマリ、果ては生徒会活動まで足を踏み入れ、高校生活の余暇時間の殆どを実行委員会や生徒会活動に使ってしまいました。後々その時間を勉強しておきよかつたのにも思わぬいでもなかつたのですが、そこで育んだ友情は男女を問わず一生ものになりました。その後、縁あって現在は茨城県職員として奉職しておりますが、業務として大きなイベントを実務部隊として取り仕切る経験を 3 回させていただきました。

そのうち 3 回目「いきいきいばらきゆめ国体・ゆめ大会」です。国体局には竜一出

身者が多く、実施本部(私)、式典(現定時制教頭の高野君)、競技の国体運営の主要部門に同級生(高2の時のクラスメート)が集結し、さらには後輩までいたので、抜群のチームワークを誇る竜一の卒業生軍団が国体の成功に一役買ったのでは?と自負しております。

イベントを取り仕切る業務は、文化祭活動の延長のようなものです。まさか、高校時代の文化祭実行委員会や生徒会の経験が後々の人生に活きると思ってもいませんでしたが、人生において無駄なこととは何一つないのだと改めて感じる機会ともなりました。

私にとっての高校時代は、今の自分をつくった基礎になる時間であつたとともに、疲れた時に、校舎の窓から風に揺られる木を眺めていた自分を思い起こし、高校時代楽しかったなあとちよつと戻つてみる輝かしい思い出箱なのです。

集団の中で個を生かす

坂本 恭子(高40回)

年齢の異なる同僚が集まつても、「石段登る六十余...」と、五番の歌詞でさえも、全

員が今でも口ずさむことのできる校歌。野球応援に向けて繰り返し練習し、いつしか歌詞も意味も自分たちの中にすつと入り込み、それと同時に、竜ヶ崎一高生であることの自覚と誇りが芽生えていったように思われます。

現在、私は義務教育学校の教員として働いています。本校には、四十代を除く二十代から六十代の白幡同窓生がいます。教育委員会の教育長先生、指導室長を含めると、十一名が竜ヶ崎一高で培った知識や技術を駆使して、児童生徒の指導にあたつています。社会や数学、英語、体育、特別支援教育等、様々な分野を担当しています。高校時代の話題になると、野球やバスケットボール三昧と「部活動しか記憶がない」と述べる人もいれば、やはり行事である文化祭や京都、沖縄、北海道の修学旅行が思い出と言う人もいます。それぞれが別々の時、空間で、様々な思いで過ごしていたことを竜一談義で感じます。

その一方で、高校の制服が変わるといふ話題になった時、「あれが竜一なのに」「同じ制服を着ていたんだね」と、「同じ」といふことが集団意

識を芽生えさせ、私たちを結び付けていると感じました。私たちは、同じ学び舎で、同じ制服を着てあの校歌を歌い、順位よりも赤点を気にしつつ、「先生になりたい」という夢に向かつていました。

今、私が思うことは、「集団の中で個を生かす」ことのできる学校が竜ヶ崎一高であつたと。「同じ」という枠の中で、「違い」という個を尊重して、自分のペースで、自分の目指す事に進める道を示してくれていたと思えます。だからこそ、本校の白幡同窓生誰もが、竜ヶ崎一高での教えを生かし、児童生徒の思いを尊重する集団作りに努め、個を大事に日々邁進していると自負しています。

高校生活を振り返って

堀越 朋恵(高55回)

竜一での三年間にはたくさんの思い出がありますが、その中でもライフフル射撃との出会いは私の大きな転機でした。それまで運動が全く得意ではなかつた私が、関東大会、全国大会、国民体育大会に出場するなんて入学前には想像もできないことでした。この経験を通じて、困難に直面し

た時に無理だという先入観を持たずに、「私にもできるスポーツがあつたのだから、他に何かできる方法はあるのではないか」と物事を違った角度から考える習慣がつきました。

毎日朝夕練習していた部活でしたが、どんなに疲れても勉強をおろそかにしないで頑張ろうという気持ちを持ち続けられたのは、将来を見据えて努力する仲間達がそばにいたからです。また、顧問の山田昭雄先生は移動中もラジオ英会話を活用するなどして隙間時間も決して無駄にしない姿を示してくれていました。その姿を見ていると、時間はいくらでも作る事ができるという気持ちになりました。いつまでも学びへの意欲を持ち続けたいと思うようになりました。

今、新型コロナウイルス感染症の対策のため、我が子も含めあらゆる年代の子ども達が休校や行事の中止に直面しています。私が高校二年の九月十一日、アメリカ同時多発テロが起こりました。飛行機によるテロであつたため、秋の沖縄への修学旅行は中止だと伝えられました。世界中が不安に包まれ、私たちの当た

り前の生活も消えてしまったのだと絶望的な気持ちになりました。しかし、学年の先生方は修学旅行という貴重な学びの機会をなくさないために、短期間で計画を立て直し、その年の冬に神戸・大阪・京都への修学旅行を実現してくれました。修学旅行にはもう行けないと思っていたのでとても嬉しかったし、部活の大会と重なって白龍祭などの行事に参加できていなかった私にとってにはクラスメートとの大切な思い出になりました。



高 55 回
三浦 健太郎

今の私を支える竜一高での経験

55 回生は、入学直前に竜一高がセンバツに出場、1 年次に創立 100 周年を迎え、2 年次にアメリカ同時多発テロの影響で修学旅行の行き先が沖縄から関西に変更、3 年次には茨城県でインターハイ開催、という学年です。

私の高校生活の想い出は、吹奏楽部での活動が中心です。週に 7 回、朝夕と練習に明け暮れていました。個人的な部員の多さ故の悩みなども抱えながらも、私にとっては掛け替えのない居場所でした。

特に印象に残っているのが、3 年夏のコンクール直前一週間の練習です。3 年間の集大成になる場ですが、部活動に対する部員の目標やモチベーションが揺れてしまい、演奏もバラバラという状況でした。そこで、部長を中心に部員みんなで話し合いをして、「県大会金賞」の目標を再確認するとともに、顧問の木村幸彦先生にも静かに喝を入れていただき、部員が団結。一気に仕上げましたが、金賞は惜しくも逃してしまいました。苦い思い出ですが、目標を共有することや、一体感を醸成することの大切さ、フォロワーシップの重要性など、多くの教訓が残りました。

年に一度の定期演奏会には、多くの卒業生にも出演いただいています。大学生だけでなく、親世代の先輩方もいらつしやいました。振り返ってみれば、演奏力の向上だけでなく、大学や社会のイメージを深めたり、大人との接し

方を学んだりするまたとない機会でした。

大学受験の経験も、今の私を支えています。多くの科目を論述中心で課す大学を受験したことが、計画的に物事を進める習慣や、物事を順序だてて捉える力につながっています。浪人することになりましたが、2 年次の担任だった中澤齊先生に志望校受験への背中を押していただいたこと、他の多くの先生方にも添削等でバックアップいただいたことが、一年後の合格につながりました。

現在、教育系の企業で高校向け情報誌の編集長を務めています。日々の仕事のあらゆる場面で、高校時代の経験が生きていると感じています。コロナ禍で思うような活動ができない中ですが、高校生の皆さんには、日々の授業、部活動や学校行事を大切に、高校生活を充実させてほしいです。

夢を叶えた始まりの地



高 55 回
横山 貴史

8 月下旬、突然高校の級友から電話がきた。何だと思いつた電話に出てみると、「白幡の原稿をよろしく」というものだった。いやいや違うでしょと思いつながらも、毎年送られてくる白幡同窓会報は必ず目を通しており、そして級友・先輩からのお願ひということであればやるしかない、と自分を奮起して引き受けた。

ごく光栄だった。うまく務められたかは不明だが、この経験、そして恩師の木村先生、栗山先生との出会いで「教員」という道を目指す夢ができた。在学中多くの迷惑を掛けたにもかかわらず、変わらず指導し続けて下さり大変感謝しております。ご指導ありがとうございました。

さて何を原稿に載せようか考えてみたものの、もう十数年前のこと。鮮明に覚えているのはやはり部活動である。私は高校から陸上競技部に所属した。元々走るの好きで、中学まで球技をやっていたことで、高校からは個人競技をやりたいと強く思っていた。校舎と野球グラウンドの間のスペースで活動している陸上競技部だが、先輩にも同年代にも後輩にもインターハイ入賞・出場者が数多くいる部だった。そんなすごい集団の主将を任せられたことは、す

高校卒業してから 8 年後、自分の夢であった「教員」としての第一歩が始まった。勤務地は県西地区の高校であったが、恩師と同じ立場で働くことができること、そして陸上競技部の顧問になれたことで、全く不安はなく毎日仕事を楽しみで仕方がなかった。その日々は今も変わらない。さらに、勤務する学校には常に竜一卒業生の先輩がいる。これほど心強いことはない。改めて竜一生の存在の大きさを感している。

母校の竜ヶ崎一高は昨年度より附属中学校が始まるなど、日々進化している。そして、現在在学中の後輩達も自分の目標に向かって歩み続けている。私もその波に乗り遅れることのないよう、精進していきたい。

終わりに、今後の竜一の益々の発展と現役生、卒業生

皆様のご活躍を祈念し、結びと致します。

Team of Rivals



高 65 回
川崎 宏修

「変な話、君たちはチームなんです。ですが、チームでありながら、同時にライバルでもあるんです。」

白幡の執筆依頼をいただき、三年間学年主任だった小澤茂幸先生がおっしゃっていた言葉が蘇りました。Team of Rivals は当時の学年便りの題名でした。六十五回生なら忘れられないぐらい、体に染み込んだ名前ではないでしょうか。変な話です。

今でもつながりのある友達と毎年集まります。いろいろ話す中でも、特に高三の受験期が多いです。お互いに鼓舞しながら乗り越えたあの期間はまさに Team of Rivals でした。模試の結果が出れば、帰りの常磐線と常総線で見せ合いました。そして、お互いの志望校の判定を見て励まし合いました。佐貫駅(現龍ヶ崎駅)までの道を自転

車で走りながらお互いのテストの結果を伝え、「いいなー！チクショー！」と叫んだことが心に残っています。勉強時間で競い合い、一日十六時間勉強した時には、「希望の轍」という学習記録にこれ見よがしに記入しました。あの頃は、大嫌いだっただ勉強が心の底から楽しかったです。

今は、大学受験で受かったところが教育学部だったので、そのまま成り行きで教員になりました。周囲の先生方の話を聞くと素晴らしい志をもった方ばかりで、なんとも恥ずかしい経歴だと感じます。それでも、子どもたちの成長を感じる事ができる日々充実感を感じています。

本来であれば、当時、横須賀先生、市村先生、屋貝先生のご指導のもと、同級生二人しかいなかったバレーボール部で、偉大な先輩方や優秀な後輩たちに恵まれ、そこそこ良い成績を残したことを自慢し、球技祭で緑色の半ズボンとクラスTシャツを身に纏い、バスケット相手にちょっとだけ頑張ったことを伝え、修学旅行でいろいろあったことを語る文章と迷いましたが、それはこの感染症が終わった時の同窓会の話のネタにしよ

うと思えます。

私自身、誰か知っている人がいないか目を通していた白幡に、自分が掲載されるなんて考えてもいませんでした。この文章が、私を知っている人の目に留まり、高校時代を振り返る材料になってくれれば幸いです。最後に皆様の健康を願って、結びとさせていただきます。

夢中になれるもの



高 65 回
木村 駿

竜一高を卒業してからあつという間に八年が経ちました。私たちの代は一年生の終わりにには震災があり、最近コロナで生活が大きく変化して当時は想像できなかった暮らしをしています。

竜一高での三年間は人生を何で食べていくかを考えることの出来た時間でした。

カーデザインに興味があった私は高二の終わりから美大受験に向けて方向転換し取手の画塾に通い出しました。

同級生が放課後も自習室で勉強に励む中、私はそそくさ

と石段を後にし石膏像のデッサンや絵の具で色彩構成などに取り組んでいました。

ファイブアートやグラフィック志望の藝大受験生や浪人生の多い中で工業デザイン志望の私は完全にアウェーでしたが、下手な竜一の学ランのヤツと思われぬように必死で描きました。

デッサンだけでは入れてもらえないので学科も努力しましたが、友達と当時の受験勉強の話が出ると熱量の違いに今でも申し訳無くなります。

当時は受験勉強に実感が持てずどうエンジンを掛けるかが課題でした。これを読んでくれている現役生におすすめてほしいことは興味のある学校や会社実際に行動してみることです。

私は志望大学の学食と寮を見学してモチベーションを加速させていました。

幸運にも私は今、カーデザインのの仕事に携わっています。

直近で言うと東京オリンピックの選手村を走ったトヨタの e-palette と言う自動運転車に関わることが出来てこの仕事をしていた良かったなと感じています。

またこの仕事がかきかけ

聖火ランナーを務めることが出来ました。

自動車は非常に多くの人が関わっていて自分の想いを通すのは大変ですが、生徒会や文化祭でワイワイやっていたのを思い出して色々な人と一緒にものを作るこの大変さをボジティブに捉えて何とか元気にやっています。

竜一で早い内から自分の進路や将来について考えて道を進めたことに感謝しています。

母校と私の人生

私の原点



高 29 回
小幡 法男

プロローグ

6月、東京都の私学校長研修会で、偶然3歳下のOBに出会った。「俺29回卒、担任は藤沢先生、軟式テニス、愛宕中、中山校長先生から蓮沼校長先生」。彼は「32回です。私も藤沢先生でした。取手二中です。懐かしいですね」お互いにジーン。白幡台で過ごした仲間との出会い。同じ時代でなくてもその思いは通じ

る。卒業しても竜一高にいつも見守られている。

『思い出の詰まった日常』

竜一との出会いの記憶は母に連れられ見に来た仮装行列のモノクロ写真に始まる。

石段を登って合格発表を見に行った15の春。いろは坂での集合写真、マジソンスクエアガーデンバッグにコインローファーとは無縁、両合羽で自転車。梅雨の水墨画のような景色、一高下の浪川商店で見たNHK新八犬伝、秋天の日だまり、体育祭の仮装行列、球技会で決めたゴール、部活帰りの富士山のシルエツト、ベランダから投げた折れた白墨、持丸先生のご指導で行った日本史の授業、流行歌「好きよ、キャプテン」、でも出会いはなかった軟式庭球、給食室から漂う食欲をそそるにおい、畳のうねった合宿所、サロメチールの夜襲。3年間男子クラス、合格していないのに天井めがけて胴上げ遊び。手すりに書き残した名前、受験で母が参列の卒業式。二浪も目医者の夢は儚く消え、定まっていたかのように教員の道へ。それをじっと辛抱して見守ってくれていた両親と家族。

『教員として母校へ』

初任校で授業を成立させることと生徒指導を学び、二校目で早くも母校へ。定時制で心のつながりを、全日制で進路指導と部活動、クラス経営に注力。担任の頃のクラス目標「挨拶ができる。掃除ができる。時間が守れる。自分の意見が言える。他人の心の痛みがわかる。」野球部の多いクラス担任を三回、夜行バスでの甲子園引率、軟式庭球部顧問での関東大会、インターハイ出場、白子宿泊の研修大会。

振り返ると、1976(昭和51)年度卒の29回生として3年間を白幡台で過ごした。教員として昭和62年度から定時制、平成元年度から全日制勤務、計14年間。定年退職後再任用教諭で2年間、教育実習の2週間も入れると、ありがたことに20年近くいろは坂を行き来させていただいた。在職中は、授業やクラス経営、部活動の指導、校務分掌など、多くの面で未熟さと経験不足、至らぬ点ばかりで恥ずかしいかぎり。生徒、教職員はじめ、関わってくださった方々に申し訳ない気持ちです。いつもお詫びの言葉は「こんな僕でごめんね」。

『授業語録』

再任用フルタイムで再び竜一とともに歩んだこの2年間。竜一が私を若くしてくれている気がした。拙い授業での語録を挙げてみる。入り口はどこにでもある。音読に始まって音読に終わる。

人格の形成(人物が出てきたら四角で括る、古典の授業での約束事項)、尊敬語は高い声、謙譲語は低い声で読む(これも約束事項、丁寧語は森進一、接続助詞はひぐらしで)。

現役は最後まで伸びる。トンネルの中にいるのは自分だけではない、心の闇を抱えた親の思いのなんと深いことか。

浮足立つのは当たり前、恥ずかしいことではない。やつてしまった後悔はやがて小さくなる。やらなかった後悔は・・・。

遠き慮り、遠慮深い人とはどういう人か、深謀遠慮、悩んで当然。レジリエンス(折れない心)、(目の前の人を)リスベクト、雲の向こうはいつも青空。

この世に無駄なものなど一切ない。magic pebbles 魔法の小石

を拾い続ける。

人生は二度なし、本気で思いつきやりやってみる。

梅雨の水墨画のようなこの景色、叩きつける雨の音を聴こう。

秋天の日だまりでたっぷりと陽を浴びてみよう。

たまには空を見上げて思いつき空気吸ってみる。

『師との出会い』

『なんでも見てやろう』小田実、疑ひは人間にあり蛇苺、現文大崎先生。学年主任宇野先生古典に時事放談、世界史長南章先生の語るトロイの木馬、stiff upper lip の佳郎先生、achoo time は小竹先生、地理蝦原先生のアオバズクとドイツ語講座、数学飯野先生に指されて「暗中模索」「四面楚歌」。来賓栗山会長「何とかなるさ」。正副担任中根、持丸両先生の組の静寂。小幡君は私の友人に雰囲気似てると政経中條先生、お前は字が丁寧と太治郎先生、そうだな、小幡の言うとおりだなと正樹先生、存在を認められて照れながらもくすぐったい自分。

藤沢宏至先生との出会い。あのチヨークまみれでひたすら授業にかけける情熱。あの夏のうだるような暑い日に、広

範囲を、一軒、一軒、訪問せずに生育環境を知るために自転車漕いで廻る。おそらくは出張伺いも出さずに。クラスから誰も出なかった野球応援委員に、五十過ぎの痩せ細った体にまとった黒い学ラン、白い鉢巻き、そんなことをさせてしまった苦い思い出。先生は純粹で、物事を真正面から受け止めて、まともに取り組み、対処なさっていたと思われる。少しの妥協もなく真摯に向き合っていた印象が。夏休み前日のホームルーム。8月15日、終戦記念日を忘れてはならない。そうおっしゃって、照れくさそうに、少しふるえた、か細い声で『ああ、許すまじ、原爆を』。教員生活、ずっと一担任として取り組む信念と気概が高校生の私にも伝わってきた。

軟式庭球部顧問の富永道也先生にも生涯にわたりお世話になってる。「同じ釜の飯を食う」教えは今もソフトテニス部に脈々と受け継がれている。俺はブン屋になったかったと若い頃の夢を語り、合宿のミーティングで、さて毎度お馴染みの小幡を一席、と落語を披露。小幡、セミになつてみる、恒例の度胸をつける一芸披露で一人一人に活

躍の場。翌朝、小幡、鏡見て
こい、スヌーピーの寝ぼけ顔
はマジックだらけ。おおらか
な気持ちで部員の成長を今で
も見守ってくださいっている懐
の広さ。

お二人だけでなく、当時お
世話になった竜一の先生方に
は、教育にたずさわる人とし
てどうあるべきか、自分の在
り方・生き方はどうか、そう
いうことを身をもって教えて
いただいた気がする。教育者
としての誇りと使命感がずん
と重く心に伝わってきた。今、
そしてこれからどう考えてい
くのか。皆さんにずっと問い
続けられているような気がす
る。先生方は本物を見せてく
ださった。おんぼろの第一体
育館でのラジオ講座の松山正
男『Yes I can』、脚本家の山
田太一『旅へのいざない』講
演会。お一人お一人が自身
の姿勢を若い我々に見せて記
憶に残してくださいました。甘
え過ぎの教え子たちであつて
もきちんと敬意を持って接し
てくださいましたこと、目の
前の若者たちに将来を真剣に
託そうとなさっていたこと、
人としての根っここのところを
受け取らせていただいた。今
でも感謝しています。教育は
人なり。

「エピソード」

高校のことを綴ると最後は
自己省察に行きつく。あれほ
ど大事にされてきたのに、ど
れだけきちんと向き合おうと
していたか。わかったつもり
で真摯に取り組めていなかっ
た。一生懸命になる、本気で
取り組む、相手の思いに誠実
に応える、どれも中途半端な
自分がいた。真剣、必死になっ
ても実力のなさが露呈するこ
とが怖かったのかもしれない
、隴西の李徴のように。歳
を重ね、これまでの一面面を
振り返るたびに、赤面の思い、
取り戻せない喪失感。まさに
マジナルマン、疾風怒濤の
時期の自分を思い知る。人生
の3分の1を過ごした竜一は
私の原点。恩返しに今、「さ
を「か」に換えて前を向こう。
「今さら」でなく「今から」、
竜高健児、剛健の気風で前向
きに。協和の心を保ち、愚直
でも高潔で恥ずかしくない生
き方を、教え子に胸を張れる
誠実な姿を見せていきたい。
恩師、同級生、先輩、後輩は
じめ、お世話になった方々に
そして、竜一、両親、家族に
感謝。わが母校、竜一のます
ますの発展を祈っています。
これからも精進してまいります。
(貞静学園中・高校長)

季節の移り変わりを感じる
日々



高 46 回
佐竹 宣幸

先日、とある金融機関でと
てもうれしい出会いがあつ
た。私は仕事から金融機関で
人と会うことが多い。相手は
不動産業関連の業者や、その
お客様であることがほとんど
である。そして、時にはお客
様の代理人の弁護士の方が
いらつしやることもある。今
回は、まさにそんな案件で
あつた。

私はまだ弁護士の先生が絡
む案件の場合は少し身構えて
しまう。目的の金融機関に着
き、案内された奥の部屋には、
既に弁護士と先生と不動産会
社の仲介の方がいた。もう少
し早く来ればよかったと後悔
しつつ、弁護士の先生と名刺
の交換をしようとポケットの
名刺入れに手を伸ばした。そ
の時少しの違和感が襲ってき
た。なんだろう。恥ずかしな
がら、私は人の顔を覚えるの
が苦手である。もしかした
ら、私は以前仕事でこの先生
に会っているのだろうか。だ
としたら、また何知らぬ顔で

名刺を交換するのは失礼であ
る。どうしよう、この弁護士
の先生は私を覚えているのだ
ろうか。などと考えながら先
生に名刺を差し出そうとし
た。しかし手が止まった。先
生が「あーお前は！」という
感じで、私に指を指している
のである。先生は完全に私を
覚えていた。そして、完全に
私も思い出した。私はこの「先
生」に以前あつていた。しか
も30年近く前に、である。私
が竜ヶ崎一高の生徒であつた
頃にだ。弁護士の先生として
ではない。まぎれもなく「先
生」としてである。そう、こ
の「先生」は、私の高校時代
の恩師である、有川保先生そ
の人であつた。高校時代に私
を導いてくれた先生が、30年
近い時を経てまた先生として
私を導いてくれたのである。
母校である竜ヶ崎一高の懐の
深さに驚くと共に、感謝の気
持ちでいっぱいになった。

そして、有川先生これから
も導いてください。仕事上で
も、いや、本当に今後ともよ
ろしくお願ひします。また連
絡しちやいます。恐らく絶対
に。

この様な出会いがあり、そ
れがきっかけでこの記事を書
く機会を頂いたのだが、筆不

精の私には全くもつてもつた
いない事である。さて、何を
書こうかな。うーん。なつか
しい青春の頃を思い起こす
と、あの頃は季節ごとのイベ
ントに一喜一憂していた様に
思う。それでは、そこから飛
躍して季節感について書こう
と思う。青春時代とは異なり、
この年になると時の流れが早
いので、しっかりと季節を感
じて日々暮らしていきたいと
いう思いをこめて。

さて、この記事を書いてい
る今は10月の頭である。まだ
暑い日もあるが、だんだんと
秋らしい過ごしやすい季節に
なってきたと感じる。私は仕
事や休日でも、トイレを借
りたり、飲み物を買ったりで、
コンビニに立ち寄ることが割
と多い。そして、私が普段最
も季節を感じる時はコンビニ
に立ち寄った時である。なぜ
なら、その時の店内の様子や
商品の品ぞろえが季節の変
わり目を教えてくれるからで
ある。例えば、今の時期コン
ビ二のレジの脇には中華まん
の仕器が置かれており、すで
に中華まんの販売が始まって
いる。これを見ると、もう秋だ
なと思う人は多いのではない
かと思う。しかし、コンビニ
の中華まんの販売が毎年いつ

かと思ふ。しかし、コンビニ
の中華まんの販売が毎年いつ

位から始まっているのかを気に留めている人はあまりいないのではないだろうか。だいたい、どのコンビニチェーンも8月の20日前後に中華まんの販売を始めるのである。まだ暑い最中ではあるが、ここから始めて最盛期の11月以降に向けて認知度を高めていくのだ。中華まんが一番売れる時期は真冬ではなく、11月から12月にかけてなのである。なので、秋口からはほとんど新商品が投入されていく。この時期は主力の肉系の商品が多く投入される。年明け位からはちよつと変わった味のものも出てくる。例えば「チョコまん」などのデザート系である。これは最盛期を過ぎて、飽きが出てくる時期に目先を変えるために投入される。なのでこの時期の新商品は野心的なものがちよくちよく出るから注意が必要だ。私は「みかんまん」等のフルーツ系はちよつと苦手である。ちなみに、常に一番の売れ筋は、やはり普通の「肉まん」である。毎年ダントツに1位である。そして中華まんは、2月位から種類を減らしていき、5月の連休前までにはひっそりと姿を消すのである。

秋口以降のコンビニの店内

の様子は目まぐるしく変わっていくので面白い。まずはハロウィン関連の装飾が始まり、ボジョレーヌーボーの予約が終わると、クリスマス装飾、クリスマスが終わるとすぐに、年賀状等のお正月関連の売り場が出現する。年が明けたら恵方巻の予約が始まり、2月はパレンタインのチョコ、3月はホワイトデー関連と目まぐるしい。コンビニの店内に入ればその季節ごとのお約束が嫌でも目に入ってくる。仮に今が何月かを忘れたとしても、コンビニに行けば思い出すことが出来るほどに。

いつもありがとう。コンビニに携わる全ての方に感謝を込めて・・・かつて、とあるコンビニのフランチャイズに加盟していた事は内緒です。

(司法書士)

「自分の好きなこと」を大切に



47回 高 空 由佳子

青春時代を送った母校、竜ヶ崎一高。毎日40分かけて自転車を通った高校までの長

い道のり、高台にある校舎へと至る階段、先生や友人たちと過ごした温かい時間、愛らしいボレロの制服、その記憶は今でも鮮明に蘇ってきます。

竜ヶ崎一高は文武両道を重んじる進学校で、音楽の道に進むことを希望していた私は、勉強にいそしむ友人たちをよそに、のんびりと過ごしました。自由な校風で、先生

方は懐が深く、受験に関心はなかった私にも辛抱強く指導してくださり、のびのびと学校生活を送れました。また、両親は私の自由な意思を尊重してくれました。大好きなクラシック音楽に没頭する一方で、それまで無縁だったスポーツ系の部活動である剣道にもチャレンジしました。進路のためには矛盾する選択

だったとはいえ、高校生活は「好きなことができて楽しかった」の一言に尽きます。諸事情あって音大進学を断念し、進路転換を迫られた私は、自分が何を生きていきたいのかがわからないまま、東京女子大学に進学しました。その際を選択したのが、文学部史学科でした。私が音楽以外に関心があったのが、世界の貧困・環境問題や

歴史・文化で、高校でも世界史は「面白い！」と思えたからです。竜ヶ崎一高で世界史を選択した生徒は少なく、先生が数人のために早朝の特別講習を行ってくださっていました。ある日、先生が寝坊されて、お詫びに缶コーヒールをごちそうしてくださったことは、今でも笑い話として覚えています。

大学では、国際交流系のサークルに所属して世界中の多様な学生と交流し、また素晴らしい研究者に出会って学問の面白さを知りました。これらの経験を通して、自分の好きなことをしながら、世界に何か役立ちたい、と思い、研究の道に入りました。東京

都立大学修士課程、東京大学博士課程に進学し、さらにフランス政府給費留学生としてポルドー大学に留学して博士号を取得しました。研究テーマはフランスの貧困とチャリティです。

フランスで生活し、研究し、論文を書くというのは、華やかなイメージとは裏腹に過酷であり、外国人として差別も受けました。また、結婚・出産も経験し、思うように研究ができない時期もありました。しかし、人生で経験する

困難、寄り道、挫折に無駄なものなどひとつもなく、それによって人生は豊かになりました。

現在私は、フェリス女学院大学国際交流学部で、ヨーロッパの歴史・文化やフランス語を教えています。音大志望だった私が、音楽学部のある大学で教員をする、というのは、高校時代の私では想像もできなかったことです。

大学に入ったばかりの、可能性に満ちて「キラキラ」輝く学生たちに、私は次のふたつの言葉を伝えるようにしています。

「可能性は無限大」。「自分の好きなことを大切に」。

高校生のみなさん、竜ヶ崎一高で貴い青春時代を思いきり楽しみ、そして「自分の好きなこと」を大切にしてください。自分を信じれば、きっと道は開けます。

(フェリス女学院大学 国際交流学部 准教授)

オンラインで再会した母校



高 50 回
武田 直記

私は95年4月から98年3月まで竜一に在学しました。ここではまず竜一時代を振り返った後、現在の私に触れたいので、約23年ぶりにオンラインで母校と再会したエピソードを御紹介します。

1 竜一時代

当時、私は所属していたソフトテニス部の活動に明け暮れていました。決して上手ではなかったのですが、「なんとか武田を勝たせてやらねば」と熱心に御指導くださった小幡法男先生に感謝申し上げます。部活動を引退後は、外国語学部に進学したいと考え必死で英語を勉強しました。特に担任の川口浩己先生ほか英語の先生方には、入学試験に課される英作文の添削をしていただくなど大変お世話になりました。

2 現在の私

私は現在韓国ソウルにある日本大使館で働いており、竹

島問題への対応や韓国の外交安保政策に関する情報収集を担当しています。コロナ禍で制約はありますが、韓国政府・メディア・大学関係者のほか、韓国に駐在する諸外国の外交官の方々にお会いして話を聞き、私からは我が国の立場をしっかりと相手方にインプットするという外交の仕事にはとてもやりがいを感じています。

日本でも韓国内の対日感情悪化のニュースが伝えられ、実際に日本大使館がデモ隊に取り囲まれるなど緊張を強いられる日々もありましたが、日常生活では私たち家族が日本人だという理由で不快な思いをしたことは一度もありません。むしろ、電車の中で子供たちが日本語で会話をしていたところ、席を譲ってくれたさつたり、お菓子をくださる韓国の方もいらっしゃいました。

ちなみに私が住んでいる地域はソウル市龍山(ヨンサン)区です。「龍」の字に龍ヶ崎との縁を感じます。

3 母校との再会

そんな折、オンラインで母校と再会する機会が訪れました。私が所属する外務省では、

全国の高校に職員を派遣して(最近ではコロナ対策のためオンラインで)国際理解や外交官の職務について講演を行う「外務省高校講座」という事業を実施していますが、竜一より御依頼をいただき、卒業生である私が講師に選ばれました。そして2021年6月17日、竜一とソウルの日本大使館をオンラインで結びました。

講演では大使館の仕事について紹介した後、竜一生が取り組むSDGsについて国際的な観点からお話しさせていただきました。そして、私から「インターネットの情報だけで特定の国に対する先入観を確立させてしまうのではなく、その国の方と話をしたり、実際にその国を訪問して自分の目で見てから判断してほしい」とアドバイスさせていただきました。

コロナの影響で長らく一時帰国もできない中、画面越しに懐かしい竜一の制服を目にした時は感無量でした。そして、目を輝かせながら真摯に話を聞いてくれる後輩たちの姿を見て、将来彼らが様々な分野で立派に活躍してくれるであろうことを確信するとともに、改めて自分が竜一の卒

業生であることを誇りに感じました。

今回の講演をきっかけに、「白幡」執筆の機会や当時お世話になった先生方との再会の機会も賜りました。この場を借りて関係者の皆様への御礼とともに、竜一と白幡同窓会のさらなる御発展を祈念申し上げます。
(在大韓民国日本国大使館)

私の原動力の源



高 53 回
雑賀 正志

推薦入試の面接で、竜一高出身のオリンピックピック金メダリスト岡野功先生の名前を答えられなかった私を拾ってくださいました先生方と、在学中、柔道は県2位、学業はクラスでビリから2位だった私を最後まで面倒を見てくださった先生方への感謝と懺悔の気持ちでペンを握らせていただきました。

現在、38歳の私は、社会福祉法人の理事として、介護施設、診療所、保育園の運営に携わりながら、地域団体や職

能団体の理事、近隣中学校や高校柔道部の外部指導者等も関わらせて頂いております。「経済なき道徳は戯言であり、道徳なき経済は犯罪である」という言葉があるように、心身の健康はもちろん、より良い人間関係の構築、仕事における成果、経済基盤の確立等、自己概念と付加価値を高める努力を続け、与えるに十分な自分で在り続けることが大切だと考えています。

有限である時間、自分の命を何のために誰のために投資するか、浪費になつてはいないか、と内省する機会が増えたのは、様々な団体、コミュニティに参加し様々な価値観にふれたことで得た大きな価値です。

そんなことを考えながら活動をしていると、「いつもポジティブですね」とか「よくそんなに頑張れますね」と声をかけられますが、その原点は、紛れもなく高校時代柔道部の恩師、羽成邦男先生(元校長)によって形成されました。

思い出すだけで身の毛がよだつあの時の修練に比べれば、自分が関わっている案件で、精神的に追い込まれることはありません。「進学校だから

柔道で強豪私立に負けても仕方がない」という妥協は一切なく、勝ちに対する執念と古豪としてのプライドを日々磨いていたように思います。そして、今は目の見なくてもいつか見返してやるという内なる闘志(何くそ根性)は、私の原動力となりました。

羽成先生は、「素直な者は上達が速い」「実るほど頭を垂れる稲穂かな」と私たちに説いてくださいました。卒業して20年経った今でも、見透かしているかのような最高のタイミングで叱咤激励してください、その度に、信念を持ちながら他者の意見、価値観を受け入れる器量と、成果が出た時ほどおごり高ぶることなく謙虚な姿勢でいることが大切だと、論してくださいます。

また、同じ恩師の愛情を存分に注がれた『戦友』とのつながりは生涯の財産であり、母校への感謝、師への恩義を忘れることはありません。当時培った精神性を自信と誇りに昇華させ、再会の度に一回りずつ成長した姿(体はしぼらないとね...)を見せられるように自分自身を高め、他者の人生に貢献する人生を歩んで行きたいと思えます。

むすびになります。偉大な先輩諸兄が数多くいらっしやる中で、若輩者の私にこのような機会を与えてくださった川口浩己先生、本当にありがとうございました。電話もメールもLINEもじゃなく本当に助かりました!

(龍ヶ崎青年会議所理事長)
(河内厚生会業務執行理事)

トピック①

般若院
ご住職にインタビュー



ご住職の荒横氏

般若院と言えば、多くの方が有名な枝垂れ桜を想起されるのではないのでしょうか。実は、現在ご住職の荒横純隆氏は本校第29回生でもあり、今回はインタビュー形式でいろいろとお話をお伺いしました。

まず、高校時代のことをお聞かせください。

私は地元中学から一番近い地元高校へ入学したわけですが、広範囲から通ってくる同

級生たちがみな賢く見えまして。いい意味でたくさんの知的刺激を受けることができたと思います。

部活動は、山岳部と美術部に所属しました。山岳部では、藤沢先生ご指導のもと、冬山登山を経験できましたし、美術部では頑張つて描いた油絵作品が入賞するなど、たくさん良い思い出があります。

般若院のご住職になられたのはいつ頃ですか?

大卒後、滋賀県にある天台宗の編纂所で30年近く勤めておりました。龍ヶ崎に戻ったのが数年前でした。その翌年の平成31年、父の後を継いで第25代目住職となりました。

お寺と竜一高にまつわる思い出などはありますか?

昔、本堂で授業が行われたり、運動部の合宿にも使われたと聞いたことがあります。また、小さい頃、竜一の先生がお寺に下宿しており、当直の朝に新聞を学校まで届けたなんてこともありました。高校生の頃には、ある運動部の方たちの座禅修行のお手伝いをしたこともありましたね。

ご住職としてのやりがい、

年になりますね。

その他、桜に関する事で何かございますか?

今はもうなくなりましたが、昔、まだ私が幼少の頃、桜のそばに大きな池があり、田舟を浮かべ世話人や総代たちが乗って観桜したこともありました。

般若院の枝垂れ桜は県の天然記念物にも指定されていますが、保全保護に関しても大変では?

数十年前に枯れそうになった際、根の若返りを施す治療を行い、何とか樹勢が回復したこともありましたが、日頃



池があった当時の様子



般若院 満開の枝垂れ桜

から維持管理には注意しなくてはなりません。また、歴史的価値のあるこの枝垂れ桜の命を繋ぐという意味で、挿し木から育てた苗木の植樹も行っています。その他、研究所等の協力で桜の遺伝子保存のための取り組みもしている。

— 毎年、多くの花見客が訪れるのでありませんか？

その通りです。中には、蕾の時期から毎日通って日々の変化を見守ってくださる方もいます。私自身、この桜からたくさん元気を感じていただいておりますし、訪れた方々にもその生命力の逞しさや神秘さから何かを感じ取っていただけたら嬉しく思います。

— 最後に、竜一高の後輩に向けて一言お願いします。

竜一卒業後の今でも、母校の名を見聞きすると心がワクワクします。関西にいた際には、何度も甲子園まで足を運んで R マークが躍動する姿に声援を送りました。そして、竜一に附属中もできたと聞きました。これからも文武両道を貫いて悔いのない高校生を送ってほしいと思います。

(聞き手 高29回 川口 浩二)

トピック②

Hope Lights Our Way
希望の道を、つなぐ。



聖火ランナーを終えて

根本(綾部) みよ (高56回)
— おもてなし おもてなし。

この、滝川クリステルさんのフランス語のスピーチは、2013年9月8日、アルゼンチン・ブエノスアイレスで2020年夏のオリンピック開催地を決める国際オリンピック委員会の総会で披露され、非常に人気となりました。2013年の流行語大賞になりました。私も何度か真似をしたようなしなかったような。その当時は、あまり実感のなかった東京オリンピックでした。

そして、2019年春。聖火ランナーの募集がスタートしました。復興五輪を掲げており、茨城県にも聖火がやってくる。「応募しないわけにはいかない」と、誰もが思っ

たのではないのでしょうか？ (思っていましたよね?) 無論、私は応募できる全ての方法を試しました。茨城県と東京2020オリンピック聖火リレープレゼンティングパートナー4社。どれかには引っかけてもらえないか!?と当たって砕ける精神で応募ボタンをクリックしまくりました。

しかし、見事に全部砕け散りました。潔く自分自身はまだまだ聖火をつなぐ資格はないのだ。地域のネット放送局らしく、聖火リレーの様子を密着取材でお届けしようじゃないか、と思うことになりました。

そして、コロナの状況は改善することなく、延期しただけ、本当に開催は大丈夫だろうか?と心配もある中で、聖火リレーがスタートしました。茨城新聞などで発表される、茨城県内を走る聖火ランナーさんのことをネットで調べては悶々とすることもありましたが、聖火リレーが茨城県にやってくる日が徐々に近づいてきた。

そんなある日、仕事を終えて携帯電話を見るとフリーダイヤルで着信が2回ほど入っていた。何かの営業かしら?と、折り返しをせずにいたと

ころ、また電話が。

「はい、もしもし?」「こちらコカ・コーラ聖火ランナー事務局です。」私は耳を疑いました。この日は、6月29日。茨城に聖火がやってくる1週間前です。「根本さん、聖火ランナーをお願いできませんか?」ここ最近で、一番にやけた間抜けな顔をしたと思います。断る気持ちは100%もなかったけど、

「私なんかでいいんですか?」と言ったら、「ぜひお願いします!」、と、電話口の美声のお姉さんが言ってくれました。電話後は、ガッツポーズしました。オリンピックの聖火ランナーで牛久市を走れるなんて!と、思ったのですが、実際は、坂東市。

もちろんどこがいいなんてわがままも言いません。ニヤニヤが止まりませんでした。私は、念願の聖火ランナーになるんだ!

準備の時間は、あまりありませんでしたが、聖火ランナー向けの説明動画をみて、聖火ランナーの心得を学び、コカ・コーラさんから届いた応援グッズを実家に託したりと、万全の体制で当日を迎えました。心地よい緊張のおかげで、「必ず」持参してくだ

さい!と書いてあった体温チェックシートを、(靴を履くまではしっかり握りしめていたのに) すっかり忘れ、慌ててコンビニで印刷し直すトラブルもありましたが、無事に15分前には集合場所へ到着しました。

「聖火ランナーの方ですか?」「そうです、よろしくお願います!」と、気持ちよくなりながら説明会場へ案内していただき、念願の、石原さとみさんも着用していたあのオリンピックのユニフォームを受け取り、早速、袖を通しました。感無量でした。同じタイミングで一緒にした方々と初対面なのに、記念写真を取り合い、ワクワクしながらオリエンテーションに参加しました。そこで、一緒にトーチキスをする中学生と念入りに打ち合わせをして、いざ、会場へ。

聖火ランナー送迎用のバスから降りてからスタート地点に行くまでも、たくさんの方の声を聞いたとき、まるで有名になったかのように手を振りまくり、ニコニコしながら闊歩しました。私のスタート地点に到着したら、家族が先にスタンバイしてくれていて、「頑張れ!」という応援

白幡同窓会ホームページもご覧ください

白幡同窓会では会員2万5千余名の皆様に竜ヶ崎一高のいろいろな情報を同窓会の視点からお届けするためにホームページ(以下HP)を公開しています。

URL : <http://www.shirahata.sakura.ne.jp>

HP運営委員会から会員の皆様にお願ひがあります。

HPではリレー連載としてOB・OGの皆様の高校時代の思い出やエピソードを掲載させていただいており、皆様からの投稿をお待ちしております。

http://www.shirahata.sakura.ne.jp/Relay_rensai/hpb_Relay_rensai.html

あの頃の出来事、思いを皆様で共有出来ればこんな素晴らしいことはありません。投稿はHPの「お問い合わせフォーム」からよろしくお願ひ致します。

リレー連載 世界に広げよう! 同窓生の輪!

高校生だったあの頃にはいろいろな思い出がたくさん詰まっています。そんな1コマをみなさんに紹介していただくコーナーです。

第1回 高20回 山本 貴史さん	第2回 高22回 船山孝弘さん	第3回 高11回 中山隆治さん
第4回 高23回 菅原ひろみさん	第5回 高47回 中田浩生さん	第6回 高32回 船橋孝子さん
第7回 高33回 菅原隆雄さん	第8回 高34回 山本 昌人さん	第9回 高32回 菅本隆雄さん
第10回 高33回 菅本隆雄さん	第11回 高27回 岡村豊子さん	第12回 高32回 岡村昌徳さん

第12回 高32回 岡村昌徳さん「学園とともに」

遠く離れた中、字を離れて居ることが少なくなりました。そんな中、時代の変わりゆく姿を感じ、何かあったらいいなと願う。自分の高校時代を当時のように振り返る。僕の高校時代の思い出。あの字を離れて居た頃。そしてこの時代とともに関わりあっていた。思い出をみんなと共有したい。そしてこの時代とともに関わりあっていた。思い出をみんなと共有したい。そしてこの時代とともに関わりあっていた。思い出をみんなと共有したい。

竜ヶ崎一高白幡同窓会
事務局
〒301-0544
茨城県竜ヶ崎千手堂218
TEL 0297-62-2146

HPへは右のQRコードからもホームページにアクセスいただけます。



白幡同窓会ホームページはインターネットならではの特色を生かしながら充実させてまいります。ぜひ御意見、御感想をいただければ幸いです。

ホームページ運営委員会

フラッグを持って手を振ってくれました。また地元の小生も「頑張ってください!」と、誰だかわからないオバサンにエールを送ってくれたことが嬉しかったです。そこからは、あつという間です。スタップの方々とカメラに囲まれた前走の聖火ランナーさん

とトーチキス。聖火がトーチに点火された時は感動しました。約200メートルの距離を、たくさんの声援に包まれながら、ものすごく気持ちよく走ることができました。それから、次の聖火ランナーさんへと聖火をつなぎ私の聖火リレーは終了しました。本当

に、気持ち良い時間でした。そこからは、あれよあれよという間に、会場を後にして、取材を受けて、実際に利用したトーチを受け取って解散でした。ほんの数時間でしたが、夢のような時間でした。コロナの状況もあり、賛否両論ありますが、たくさんの

人々を感動させるスポーツの祭典。その聖火ランナーとして参加できたこと、誇りに思っています。もしも、また、日本にオリピックがやってきたら、たとえ、おばあちゃんになっても爽やかに沿道に手を振るあの快感をもう一度味わ

たいです。最後に、午後から、我が街牛久市に聖火がやってきたのですが、仮眠をしたら寝過ぎてしまつて全然取材できなかったというのは、内緒です!(ちゃん みよ TV 理事長)

Rの軌跡 一二〇年

龍ヶ崎中学・竜ヶ崎一高硬式野球部史

いよいよ刊行へ

明治三十五年(一九〇二)に創部した本校野球部が来年創部百二十周年を迎えます。硬式野球部OB会(飯田三郎会長・高23回)では、明治から令和までの野球部の歩みをまとめた記念誌の編集を進めてきましたがいよいよ来春、刊行の運びとなりました。



編集会議の様子。白幡会館を会場に2018年8月から3年半にわたって毎月開催してきた

同誌巻頭特集は、本校の校訓・校歌・応援歌や学校の沿革とともに野球部の歩みを概観した後、Rの軌跡を今に伝

購入申し込み受付中

える記念碑や数多くの優勝記念品、ユニフォームの変遷などを紹介。さらには本県の中学・高校野球の歴史を創始した大正期の連続五回の全国大会出場の偉業や記憶と記録に残るR戦士たちの活躍などを多数の写真を使ってグラフィックに紹介しています。

続く第一章「通史」では、本校百周年記念誌を底本としながら、新たな写真や直近二十年間の記録を加えて、野球部の歩みを詳しく紹介。コロナ禍における高校球児たちにも触れています。さらに第二章「試合記録」では、明治から今年の秋の大会までの試合記録を網羅するとともに、「茨城新聞」に掲載された紙面を七百点超収録。第三章「二〇〇年の部員たち」では、歴代部長・監督名簿などとともに、部員の名簿と部員たちの証言・未来へのメッセージともいうべき百本以上の寄稿文を掲載。さらに第四章では、

特別企画として、本校野球部の特徴ともいえる、県内外の高校で野球部の監督や部長として活躍するOBたちによる座談会を収録しています。

飯田OB会会長は、「この記念誌を西村初太郎先生はじめ鬼籍に入られた多くの先輩各位に捧げ、現役の選手諸君には一二〇年の歴史を大いなる糧として文武両道の道を探求し高校球児の夢の舞台である甲子園を目指して日々の練習に励んでくれる事を期待します」と発刊の挨拶で述べています。また、一二〇周年記念事業実行委員会の鎌倉克彦委員長(高44回)は、「編集に当たっては多くの方々にご協力いただきました。心から御礼申し上げます。頒布についてOBや関係者に先行案内したところ、たくさんの方から予約をいただきました。ありがとうございます。一般の方からの購入申し込みも受け付けています。部数に限りがありませので、ぜひお早めに」と述べています。

記念誌はA4判、約800ページ、上製箱入り。頒布価格は一部一万円。申し込みはEメールか電話で(下記参照)。受け付けは来年一月末まで。篠塚 文男(高28回)

本記念誌のページや収録画像から



大正期のR戦士たち



部室にある歴代部員の氏名木札



昭和41年甲子園出場時のユニフォーム



出席者の皆さん

特別編集企画 OB監督・部長座談会

『野球部で何を学び、指導者として何を伝えるか』

〈本記念誌の購入申し込み先〉

Eメール: ryuichibc@gmail.com 竜ヶ崎一高硬式野球部

電話: 090-8874-6780 鎌倉(44回) / 090-1269-8090 宮本(28回)

080-1148-5286 染谷(53回) / 080-1045-4389 柴山(68回)

※竜ヶ崎一高での電話対応や予約受け付けは行っておりません。学校へのお電話はご遠慮ください。

進路状況

○翻弄された受験生

七十三回生が受験に挑んだ令和三年は『入試改革元年』として早くから注目を集めていました。平成二年から続いた『大学入試センター試験』に代わる『大学入学共通テスト』の実施、その中の国語・数学での記述式問題の出題、さらに英語民間試験活用のための『大学入試英語成績提供システム』の運用などが予定され、当事者である生徒は二年次から対策を練り始めていました。しかし、『英語成績提供システム』は令和元年十一月に、『記述式問題』については十二月に相次いで導入見送りが発表されました。共通テスト本番まで一年余りという時期に、入試改革の二つの柱が変更されるという事態に直面しました。毎日の授業を中心とした学習活動の中で思考力や表現力、記述力を鍛えてきた竜一生にとって、知識の理解の質や、それらの力を発揮して解くことが求められる問題を重視した『共通テスト』への変更は、むしろ追い風になるように思われ、また入試に向けて学習活動に

集中できる環境が整うものと思われました。

二年次後半の助走期間を経て、本格的に受験勉強に切り替えようとした矢先、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めました。約三ヶ月に及んだ臨時休校という状況の中で七十三回生は三年次を始めることとなりました。これまでも誰も経験したことのない事態であり、学習や受験対策について不安を抱かなかつた生徒はいなかったでしょう。

○竜ヶ崎一高の取り組み

「生徒の学びを止めない」ために、竜ヶ崎一高はすぐに対応しました。生徒が学習に必要とする教材の郵送を皮切りに、インターネットを利用して授業を配信し、オンライン面談で生徒の不安に耳を傾けるなど、それまで当たり前であった学校生活を送れない中でも、生徒が学習活動に取り組める環境作りを進めました。コロナ禍によって一気にICT活用が進み、ここでの経験は令和三年九月の休校期間でも生かされました。

○竜一生の底力

本校は独自の進路指導プログラム、『Rプログラム』を基に、生徒の実情に合わせて各学年においてさまざまな進

路行事を企画し、生徒の希望する進路実現の支援をしています。コロナ禍において、それら行事の実施方法などの見直しを迫られることもありましたが、教員・生徒のそれぞれが試行錯誤を繰り返しながら、その時々においてやれることにしっかりと取り組み続けています。

本校で志望者の多い筑波大学への対策として、夏には感染対策を取りながら実施された「入試問題研究会」、本校教員が入試問題を分析した「冊子」の発行、毎月定期的

に開催したミニ集会等を通して、受験に向けた生徒たちのモチベーション向上を図りました。

私立大学における合格者数の厳格化と入試改革により、全国的に安全志向・地元志向が強まり、さらにコロナ禍によってその傾向がますます顕著になりました。そのような状況にあっても、授業や家庭学習を通して力を伸ばしてきた竜一生の多くが、最後まで目標を変えることなくひたむきに努力を重ね、見事に志望校合格を勝ち取りました。

○竜一の新しい時代へ

創立百二十周年を迎えた竜ヶ崎一高でも、コロナ禍によって一気にICT活用が進み、学習の取り組み方も大きく変わろうとしています。それでも、生徒の力を伸ばし、社会で活躍し貢献できる人材を育成していく姿勢は変わりません。高い目標を持ち続ける竜一生が、充実した高校生活を通して大きく成長し、希望する進路を実現できるよう、より一層手厚い支援・指導を目指したいと思えます。

進路指導部・井川 裕司

令和3年3月 進路状況一覧

◆国立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
帯広畜産大	1	1	1
北海道大	1	1	1
北教大	1	1	1
東大	2	1	3
山形大	2	1	1
茨城大	37	2	39
筑波大	20	2	20
群馬大	1	1	2
埼玉大	9	2	11
千葉大	5	1	6
東京医科歯科大	1	1	1
東京外大	1	1	1
東京芸大	1	1	1
東京農工大	3	1	4
新潟大	2	2	2
金沢大	1	1	1
富山大	1	1	1
福井大	1	1	1
静岡大	1	1	1
名古屋大	1	1	1
大阪大	1	1	1
京都女子大	1	1	1
九州大	1	1	1
琉球大	1	1	2
合計	92	12	104

◆主要私立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
早稲田大	7	1	8
上智大	1	1	1
東京理科大	18	4	22
学習院大	8	2	10
明治大	21	12	33
青山大	6	3	9
立教大	12	5	17
中央大	14	6	20
中法大	24	11	35
国際基督教大	2	2	2
日本大	41	15	56
東洋大	22	2	24
駒澤大	29	4	33
専修大	16	16	16
千葉工大	38	7	45
京電機大	29	5	34
京浦工大	20	4	24
芝浦工業大	18	6	24
獨協大	18	4	22
順天堂大	15	1	16
帝京大	11	11	11
東文化大	11	11	11
立命館大	10	3	13
文教大	7	3	10
国士大	7	7	7
立正大	7	1	8
共立大	6	6	6
北国大	6	1	7
立学大	6	1	7
近畿大	5	5	5
近海大	4	4	4
成城大	4	4	4
成女大	3	3	3
京治大	2	2	4
東明大	2	2	4
その他	209	19	228
合計	657	122	779

◆大学校合格者数

大学校名	現役	過年	合計
国立看護大学校	2	2	2
防衛大学校	1	1	1
航空保安大学校	1	1	1
合計	4	4	4

◆公立大学合格者数

大学名	現役	過年	合計
茨城県立医療大	15	15	15
千葉保健医療大	2	2	2
高崎経済大	2	2	2
埼玉立大	2	2	2
東京都立大	5	2	7
静岡県立大	1	1	1
名古屋大	1	1	1
合計	27	30	30
国公立大 合計	119	15	134

附属中学校

二回生入学

一回生が二回生を温かく迎え、和気藹々とした雰囲気の中で新年度がスタートしました。

一学年だけの学校生活は、時に味気なさを感じることもありました。二学年になることで、複数学年だからこそできる活動が実現し、互いに刺激し合いながら活気ある附属中となっています。



その一つが四月に行われた「仲間づくり合宿」です。コロナ禍で日帰りとなりましたが、カレー作りやオリエンテーリングを楽しみ、学年間

の距離が一気に縮まりました。



また、龍ヶ崎市のまちおこしをねらいとした課題解決学習も学年の枠を超えて行いました。市の課題を検討したり、実際に商店街を訪問したりして、解決の方法を考えました。

白龍祭でも一回生が個々の課題探求の成果を発表しました。聞いていた二回生も臆することなく質問し、互いに学びを深めることができました。

知事視察

六月二四日、大井川知事が附属中学校を視察されました。知事は、就任してから初めて学校を視察されたそうですが、一年生のオールイングリッシュの英語の授業、二年生のICTを活用した国語の授業に感心されていました。

校長からは、本校の特色ある取組や、よりよい学校づく

りについて説明し、知事からはそれらを後押しする力強い言葉をいただきました。



校外での活躍

附属中学生は、二年生だけでも他校の三年生に引けをとることなく、様々な場で活躍しています。

部活動

龍ヶ崎市総合体育大会
 ○軟式野球(愛宕中・城ノ内中との合同チーム) 準優勝

剣道

男子団体……………優勝
 男子個人 岩淵……………準優勝

柔道

男子個人 藤田……………優勝
 戸丸……………3位

水泳

女子200M バタフライ 高橋……………関東大会出場

県事業

英語プレゼンテーションコンフォラム県南大会
 二年生5名(大山、五頭、武蔵、武藤、山口)が茨城県の食をテーマにプレゼンテーションを行いました。残念ながら県大会出場は逃したものの



の、二年生とは思えない高い英語力とプレゼンテーション能力を発揮しました。

IBARAKIドリームパス 地域課題解決の企画を提案する、主に高校生を対象とした大会で、一年生4名(大嶋、大塚、大山、齋藤)が一次審査を通過しました。



二次審査はオンラインによるプレゼンテーションで、審査員である企業の方から厳しい質問に戸惑うこともありましたが、「中一でこれだけの企画ができるのは素晴らしい。」とお褒めの言葉をいただきました。

附属中教頭 内川 美佳



部活動状況

射撃部



8月9日(月)につつがライフル射撃場(広島県安芸太田町)で全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会が実施され、本校からは上野航・太田智也・福元璃音の2年生3名が出場した。残念ながら個人・団体戦ともに入賞を逃したが、2年生主体のチームなので今後の伸びが期待できる。後期には関東選抜大会と全国選抜大会が予定されているので、関東・全国で上位入賞ができるよう精進していきたい。

最後になりますが、射撃部がこのように活動できるのは同窓会の皆様のご支援の賜物

女子ソフトテニス部



酒井(2年)・幸坂(3年)ペアが本校女子11年ぶりとなる関東大会出場、15年ぶりとなるインターハイ出場を果たした。栃木県で行われた関東大会では2回戦にストレート勝ちし、3回戦は千葉県4強を相手に惜敗したが、マッチポイントを握る場面もあり、県外上位選手とも互角以上に渡り合った。石川県で行われたインターハイでは2回戦で大坂代表に2-4で敗れたが、茨城県代表として堂々とした戦いぶりであった。

顧問 小野 雅央(高55回)

です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



団体戦でも目標だった県8強入りを果たし、練習から「自律」を目指すスタイルを貫いてきたことが実を結んできた。今後はチームとしてもさらに高みを目指して精進していきたい。

顧問 及川 潤

昨今、「当たり前」だったことがいかに貴重であったか思い知らされる。このような結果を残すことが出来たのも、いつも支えてくださる皆様のおかげと感謝申し上げます。今後とも、温かなご支援をよろしく願います。

書道部

◎五年連続全高総文出場

八月三〜五日。文化部のインターハイと言われる第四十五回全国高等学校総合文化祭(わかやま総文)が開催。三年生の片見真夢さんが県代表の一人として、何紹基

黄庭堅詩四屏」の全臨大作を出品。天候にも恵まれ全国から集まった代表三〇〇名とともに諸行事に参加してまいりました。

◎三大会で上位入賞

公募展では三年生の山家榛華さんが唐の顔真卿が書いた「祭姪文稿」の臨書を出品。

- ・第五十五回高野山競書大会
- ・第五十五回記念大会賞
- ・二十二回高校生国際美術展
- ・高校生国際美術展実行委員会最高顧問賞
- ・第三十七回高円宮杯日本武道館書写書道大観覧会
- ・参議院議長賞

といずれも上位に入賞。さい先の良いスタートを切りました。高野山競書大会は五年に一度の記念大会でもあり、本来なら表彰式後は中国に派遣され、現地での書道交流に参加出来るのですが、今回はコロナ禍のため中止となったことが残念でなりません。

◎初の文部科学大臣賞

続く第十八回安芸全国書展高校生大会では、三年生の安田朱里さんが「臨・光明皇后楽毅論」の全紙作品を出品。それが見事最高賞の「文部科



片見真夢さん



山家榛華さん



安田朱里さん

学大臣賞」を受賞という快挙を成し遂げました。この大会は全国の書道強豪校が出品してくる大会だけに入選するだけでも二七%という厳選。極めて価値の高い受賞といえるでしょう。

この他にも今年に入賞者が沢山出ており、今後の活躍が楽しみです。

顧問 大古 光雄

令和3年度定通大会

「もう一つのインターハイ」といわれる全国高等学校定時制通信制大会の予選である茨城県高等学校定時制通信制体育大会は、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、他の体育大会同様に残念ながら中止となった。今年度は、2年ぶりに同大会が入念な感染防止対策を施した上で開催され、本校定時制からも2年ぶりに出場した。

令和3年6月13日(日)、県立水戸南高等学校を会場にバドミントン大会が開催され、今年度は同一競技に特化したメンバーを選抜し、2年ぶりとなる大会に臨んだ。本格的な練習を開始しようとした矢先、他校で発生した新型コロナウイルスのクラスターは、本校の教育活動にも影響を及ぼし、定時制課程も一週間の臨時休校を余儀なくされ、例年より短い期間での練習となった。この定通大会に向けて、少ない練習



時間でも効果的に成果が上がるよう先生方の熱心な指導とともに、特別授業を編成し練習時間を確保するなど工夫をして当日に臨んだ。

大会当日午前7時、学校を出発し、午前8時30分に会場到着。本来であれば、定時制生徒全員での応援を計画していたが、主催者側から、今回大会については、感染拡大防止のため、関係者のみによる入場制限により、関係生徒と定時制教職員での参加となった。会場では他の競技も開催されていたが、入場制限のため応援の生徒や保護者等の姿はなく、例年より寂しい会場の雰囲気ではあった。しかしながら、試合が始まると、2年ぶりとなる熱気に包まれた白熱したゲームが展開されていた。

本校選抜メンバーの結果は、飯塚春斗(3年)藤谷ライアン(3年)の男子ダブルスが第3位と大健闘した。コロナ禍での大会であったが、秋の定通大会や次年度大会に向け、大きな原動力となる結果も残すことができ、何より生徒たちの輝いた姿が印象に残る一日であった。

定時制教頭

高野 光章(高40回)

第五回旧職員会について

令和3年11月20日(土)開催予定していましたが第五回旧職員会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、中止になりました。

今後の旧職員会について

来年11月12日(土)の午後に旧職員会を開催する予定で進めています。

恒例の講演会は、川北弘先生の講演を予定しています。

川北先生は、登山や写真が趣味で、これまでマッターホルンやモンブランを登頂しています。また、写真家としても現代茨城作家美術展にも作品を複数回出品するなど活躍されています。

川北先生には、現役時代に発表された研究をはじめ、指導した生徒が受賞した研究発表など、ご本人の様々な趣味を含めて、ご自身が目指すハッピーリタイアメントについてお話ししてもらう予定です。お楽しみにしてください。

最後に、来年1月8日(30)日に茨城県近代美術館で開催される現美展に出品される「SILENCE」(静寂)という作品をご紹介します。



編集後記

峻に富んだ内容は、きっと童一生にも印象深いものになったのではないかと思います。

トピックでは、枝垂桜で有名な般若院ご住職の荒瀬さんと童一高で生徒会会長を務め、この夏のオリンピック聖火ランナーとして参加した根本みよさんに登場してもらいました。これまでもあまり知られていなかった事実を含めて興味深い内容でした。

待望の硬式野球部創部「百二十周年記念誌」がいよいよ刊行されます。一人でも多くの同窓生の方に手にしてもらえればうれしいです。

最後に、今回も白幡同窓会「協力金」へのご支援を賜りたく心からお願ひ申し上げます。

童ヶ崎一高の伝統は同窓生の皆様のご理解とご協力に支えられています。

今後とも童ヶ崎一高及び白幡同窓会へのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

会報編集委員

- 木野内昭治(高13回)
- 服部 俊夫(高25回)
- 倉持 正男(高27回)
- 篠塚 文男(高28回)
- 川口 浩己(高29回)
- 有川 保(高33回)
- 霜村 裕通(高33回)
- 磯山 佳美(高34回)